

立神峡だより

北海道から友好町交流のため中学生が来園

1月6日、北海道大空町から中学生が立神峡を訪れました。これは第12回ふれ愛スタディ in 氷川の企画により地元の中学生との交流を深めることが目的です。立神峡では火打石拾いから実際に火をおこす体験を行いました。最初は、なかなかうまくいきませんでした。徐々に慣れてきた後は、見事に火が付き歓声が上がりました。また、北海道の中学生はミカンが木になっているところを見たことがないということで、木登りしながらのミカン狩りやシイタケの駒打ち体験をお互いに楽しみ、交流を深めることが出来ました。早速、収穫したミカンを美味しく食べ、またシイタケの駒を打った原木は北海道に持ち帰りできるようにプレゼントしました。これらの体験を通じて、氷川町と大空町との交流が益々深めることが出来れば幸いです。



▲大空町と氷川町の中学生の皆さん

龍神橋も負けじと化粧直し

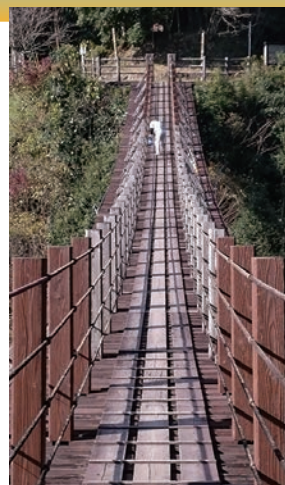
去年は火の国橋の塗装を行い、きれいになりました。

龍神橋も3年前は汚れて整備状態がとても悪い状態でしたが、吊り橋の洗浄や塗装を行わずいぶん状態は良くなりましたが、3年も経過するとまた汚れや破損が目立ってきました。

そこで、通路や両サイドの直柱の部分を塗装して、見違えるほどきれいになりました。

今後は、洗浄して汚れた部分を取り除き、塗装して火の国橋と同じようにきれいになるようにスタッフ一同頑張ります。

立神峡も年々、観光客やクルーズ船からの外国人が増えており、この素晴らしい景観を誇る立神峡を観ていただき、感動を多くの人たちに伝えることができる場所として高めていきたいと考えています。町民皆さまのご理解とご協力を今後ともよろしくお願いします。



▲洗浄前の龍神橋



▲洗浄後の龍神橋

外国人へのおもてなし準備中

今年は、立神峡を中心として、外国人に伝統文化交流やお茶・お花・書道・生け花などの体験を通じて感動していただくための準備を進めています。協力希望者も募集中ですので、お気軽にご連絡ください。

【お問い合わせ先】立神峡公園管理棟
☎ 62-1543 FAX62-1546 (8:30~17:30 火曜定休日)

ホームページアドレス
<http://tategami-camp.com>

町民文学

短歌

学業を終えたはほんの二人のみ
まだまだ続く孫への年玉
北野津 宮本 末秋

朗々と読み手の声は新春の
カルタ会場遍く響く
吉本 高橋 澄子

沖縄の友より屈く年賀状
美ら島沖縄へメンソーレ
西野津 古崎スエノ

水無月に生を受けしこの身にも
古稀の花よ満開に咲け
南鹿野 尾崎 京子

土曜ごと施設でなさる民謡会
招かれ唄ふ「阿蘇の恋歌」
西上宮 村内 一誠

新しきペン先はしるすらすらと
新たなカレンダーにスケジュール書く
西野津 古崎 栄子

見わたせば旅路はるかに霜百里
厳しき人生あかつきの声
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

雲破り燃える夕日が顔を出し
明日えの力ら与えるごとく
上鹿島 前村 俊子

俳句

神仏に供えるだけの吊るし柿
北野津 宮本 末秋

晴れやかに新春カルタ始まりぬ
吉本 高橋 澄子

冬の日や樹上で見晴らす榎剪定
西上宮 村内 一誠

嫁鯨を頂き照りのつややかに
西野津 古崎スエノ

どんどのやの黒焼け餅に福包み
南鹿野 尾崎 京子

元旦の今朝の念ずる世の平和
西野津 古崎 栄子

残り世を如何に生き継ぐ雪蜜
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

一切を心にたたみ去年今年
桜ヶ丘 吉田 照子

冬木の芽しがみつきたり春を待つ
町 田中 澄子

初雪や恩師の棺見送りて
桜ヶ丘 宮崎トシ子

スーパームン優しき光り町包む
上鹿島 前村 俊子

風の歌を聴け

（比較文学論もどき）その2

法道寺 本田 花風

もう少し読み進めると、よき反応が出るかも知れない。

僅か18日の間のこの物語は、40のセクションに綴られているが、ストーリーは繋がってはいないが、突然ラジオDJが始まる。「やあ、こんばんわ、こちらラジオN・E・Bのリクエスト。ラジオ聴いているかい。」ストーリーも会話が洒脱で引き込まれる、観察がおもしろい。ラジオが軽妙に聞かせてくれる。

情報をタイムスリップ40年遡る。鼠「スウェーデン・アカデミーは5日、2017年のノーベル文学賞をカズオ・イシグロに授与すると発表したそう。どうなんだー！」「ノーベル、もう忘れたよ、アカデミーも忘れていたさ。」「そんなもんかい。」「どこが違うんだらうね。」「アカデミーに聞いてみなよ。」「そうしてみるか、カズオは春樹に申し訳なさそうなコメントを言っていたぞ。」

近年の文豪といわれる作家たちの初期の作品と何が違うのか？

・川端康成…1899年生まれ…「伊豆の踊り子」27歳、一高の時、伊豆を訪ねて旅行、そこで知り合った踊り子との物語。

・三島由紀夫…1925年生まれ…仮面の告白」24歳、2作目の長編小説。自伝的作品で、自身を客観的に「私」を告白する

物語。短編、長編、膨大な作品を手がける。

・大江健三郎…1935年生まれ…「飼育」23歳、芥川賞受賞作。閉鎖された村で捕虜となった黒人兵を飼うことになった村の主人公の物語。

三人とも東京（帝国）大学、学歴と文学を結びつけて論じれば反発があるから、それはともかくとして森鷗外、夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、谷崎潤一郎、錚々たる文豪が名を連ねるのはやっぱり文学も高学歴が、と思うところ。

・村上春樹…1949年生まれサユリスト、ハルキスト、世間が認める有名人、春樹も世間が静かにしていればノーベル貰っていたかもしれない。しかし、初期の作品を比べる限りでは、「風の歌を聴け」は、才能は特別かもしれないが、面白くは読めるが、私とは時代感が違うように感じる。

ノーベル賞だったら、やっぱり三島由紀夫が取っておくべきだったと思う。文筆のスタイルが彼らとは明らかに違う。

大昔、読んだことがある二人の論評を探し出す。紙面はこげ茶けて周囲は綻びてとても読める状態ではなかったが、二人には関心がああり、幸いA3びつしり約一千字のコピーがのこっていた。

次回へつづく